

神楽名

かみしいば 上椎葉神楽

伝承地

しもふくら
下福良地区
しいばそん
椎葉村下福良

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

上椎葉神楽保存会
代表 椎葉秀明



鬼神

◆ 神楽の概要・由来・その他

上椎葉神楽が伝承されている宮崎県椎葉村下福良は、椎葉村の中央部に位置し、村内外から歴史や文化、雄大な自然景観を求めた観光客が多い土地である。鎮守社の椎葉いつくしま巖島神社は、元久元年(1204)の創建で、平家の遺臣が隠れ住んだ際に、安芸の巖島神社を勧請したと伝え、平家の守護神である市杵島姫命・素戔嗚命いちきしまひめのみこと すさのおのみことを御祭神とする。夜神楽祭では、巖島神社で神迎えの後、神楽宿で夜を徹して神楽が斎行される。神楽宿は椎葉村開発センターのほか、平家の鶴富姫と、源氏の那須の大八郎宗久との悲恋物語で有名な、国指定重要文化財の那須家住宅、通称「鶴富屋敷」を使用することもある。

上椎葉神楽は、狩猟や焼畑文化など山村生活の要素が信仰と結びつき表現されている。神楽の始まりについては定かではないが、寛永年間(1624～1644)頃に使用されたと伝わる神楽面が鶴富屋敷に保管されており、その歴史を物語っている。

昭和23年(1948)の神楽宿の火災で、神楽に関する古文書や道具類が焼失し、一時は中絶を余儀なくされたが、昭和47年(1972)には原型のままの神楽を復活することができた。

◆ 芸能の機会・場所

- 歳旦歳... 1月1日、午前0時より式三番しきさんばん「つまもと」「ありなが」「一神楽」を奉納
- 秋季例大祭... 11月第2日曜日、式三番を奉納
- 夜神楽祭(冬祭り)... 12月第2土、日曜日(椎葉巖島神社、神楽宿)

◆ 演目一覧

いたおこ
板起し

かみむか
神迎え

しんじ
神事

みこうや
御神屋

つまもと(式三番)

ありなが(式三番)

いちかぐら
一神楽(式三番)

だいじんかぐら
大神神楽

こどもかぐら
子ども神楽

きじん
鬼神

もんかぐら
門神楽

ゆみとお
弓通し

がんにょうじゅ
願成就

いなりかぐら
稻荷神楽

しばひ
芝引き

かんしい

おびて
帯の手

いせかぐら
伊勢神楽

としかみ
年の神

たちから
大力

おきえ

ひかみ
火の神

かみおく
神送り

※平成29年(2017)12月に奉納された演目に基づく

平成29年は舞われなかったが、本来おきえの前に入る

◆ 演目の特徴

たかまがはら みこうや とりもの
高天原、御神屋、採物（舞のとき手に持つ道具）等の御幣を切り、飾り付けを行う「エリメ」の後、神楽の舞手である祝子全員が御神屋に座し、唱教（演目の由来等を述べる）を唱える。唱えごとの終わりに、エリ板（御幣切り用のまな板）の上で榊葉を十文字に切り、切った葉を後ろに散らしてエリ板を裏返す。最後に御神前の豆腐を一箸ずつ配り、皆で食す。この一連の信仰行事を「板起し」とよぶ。

「つまもと」「ありがた」「一神楽」は式三番とよばれる神事性の高い神楽であり、中でも一番華やかな神楽舞「つまもと」は宮神楽で、神迎え、神送りの際に奉納される。「一神楽」からは「神楽せり歌」を出してよいとされており、観客が次々に囃し、座を盛り上げる。「大神神楽」は、上椎葉神楽の基本となる舞で、唱教で神の本地と採物のいわれを説く。大病にかかったときに願立てをし、願いが叶った折の願ほどきのために舞う神楽でもある。

◆ その他の特徴

- 面...猿田彦、鬼神、芝引き、大力、鉦女面 等
- 楽...太鼓、笛、鉦
- 装束...白衣、白袴、舞衣、金欄の羽織袴、狩衣、天冠、烏帽子、鉢巻、宝冠、わんとう（竹の冠に御幣をつけたもの） 等
- 採物...鈴、扇、榊、御幣、襷、面棒、弓、矢、刀、膳、小槌 等
- 文書...「上椎葉神楽」（上椎葉神楽保存会）、「御神楽の歌 書取」（上椎葉神楽保存会） 等

◆ 伝承の現状・課題

少子高齢化、人口減少が進む地域が増える中で、Uターン（子ども神楽経験者）や移住者の定住率が高く、神楽保存会の人数が増えている希有な集落である。令和5年(2023)3月現在、神楽保存会は27名で、子ども神楽も盛んである。また、学校の先生にも神楽に参加してもらい数番を舞ってもらうなど、地域を上げて意欲的に伝承活動に取り組んでいる。



御神幸



大神神楽



門神楽